

# 後援会だより

札幌大学と保護者を結ぶホットライン

札幌大学後援会広報誌

# Vol.47

発行/札幌大学後援会事務局 発行日/2016年10月30日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) http://blg.sapporo-u.ac.jp/koenkai

## 平成28年度札幌大学後援会総会及び保護者懇談会

後援会活動に対するご理解とご承認をいただき、総会および、個別の話し合いを行う保護者懇談会を開催！

### 【平成28年度札幌大学後援会総会・保護者懇談会開催レポート】

保護者の皆様に大学と後援会の活動をご理解いただき、ご協力を賜る重要な情報交換の機会、「札幌大学後援会総会」が去る6月11日(土曜日)に開催されました。総会に引き続き、大学と共催の保護者懇談会も同時開催。ご子女の修学状況や進路について、保護者の皆様とアドバイザー教員による話し合いが行われました。今号はその内容についてお伝えします。

#### 昨年度の活動と

#### 今年度の事業計画を報告する

### 『札幌大学後援会総会』

日時/平成28年6月11日(土) 午前11時  
会場/札幌大学2204教室

「学生をサポートする各種補助事業を今年度も展開」

後援会の昨年度の活動をご報告し、来年度の事業計画(案)と収支予算(案)について、保護者の皆様



左から猪狩後援会会長、桑原学長、太田理事長

にご理解とご承認を賜わる機会が当総会になっていきます。それだけに、皆様の関心も高く、この日も多くの保護者の方にご出席いただきました。議事は平成27年度事業活動報告からスタート。これが満場一致で承認され、続いて平成27年度の収支が報告されました。次に平成28年度事業計画が発表され、学生の課外活動奨学金への援助、学外研修、資格取得や受験への資金援助、外国人留学生への援助など各種補助事業の承認を得ました。今期も後援会は、会員の皆様と大学をつなぐ橋渡し役として努めていくともに、学生に対する多面的な支援を展開していく方針です。



「奨学金を贈呈し、学生の修学、生活、就職をサポート！」

学生の修学、生活、就職をサポートするため、後援会から大学に対して奨学金を贈る「贈呈式」が、総会に引き続き挙行されました。猪狩会長から桑原真人类学長に目録が手渡され、「学生が充実したキャンパスライフを過ごせるように、有意義に活用させていただきます」と感謝の言葉を頂戴いたしました。保護者の皆様のご承認をいただき、後援会は一層力強く、その活動を推進していく所存です。



## 学生一人ひとりの詳しい状況を

### 確認する機会として、『札幌大学保護者懇談会』を開催！

札幌(札幌大学)を含む道内7会場、東北1会場で開催される保護者懇談会。6月11日の札幌大学には多くの保護者の方が来場されました。懇談会は先ず、桑原真人类学長と猪狩哲夫後援会会長が挨拶のために会場のプレアホールの舞台上に立ち、スタート。大学生生活と就職状況について、担当副学長補より詳しい説明がありました。特に就職状況への関心は高く、小山茂副学長補より保護者の皆様への、厳しい就職活動に臨む学生への「理解と見守り」をお願いするとともに、「キャリアサポートセンター」の積極的な利用を促していました。



会場のプレアホールの様子

保護者の皆様には好評だったのは、学生による札幌大学トピックス。「学生生活を振り返って」と題し、地域創生専攻4年生、小幡君がこれまでの思い出を語りました。また、スポーツ文化専攻3年生の江端君は、札幌市のシティガイド検定を取得し、観光客のおもてなしに奮闘する様子を「様々な活動ができる札大生活」と題して発表。そのアクティブなキャンパスライフに対し、保護者の皆様から大きな拍手が贈られました。これに続き、保護者とアドバイザー教員がご子女の修学状況や就職状況について詳しく話し合う個別面談を行いました。なお、同時開催において、女子短期大学部はSUICCを会場にご子女に対する大学側の取り組みを丁寧な説明、その後の個別面談でも熱心に相談や質問をされるご父母の姿が見られました。後援会では、来年度も学生一人ひとりの状況について大学と保護者が情報を共有し、具体的な対応が可能となる懇談会へのご参加を心よりお待ちしております。

## 後援会から

### 私の思うこと

札幌大学後援会副会長 事業委員会 太細 博文



私と札幌大学の縁は、八年前次男が経営学部に入學したことに始まります。年月の過ぎるのは早いもので、その次男も卒業し、今は金融関係に就職し社会人となっています。この時期は就職活動もひと段落した頃でしょうか。保護者懇談会に於いての最大の関心事はやはり就職についてです。本人は勿論、保護者の方々も基本的には安定した生活を望んでいることでしょう。最近ではアベノミクスの影響もあり、売り手市場になっている様ですが、人気の会社は相変わらず激戦となっているようです。二十歳過ぎまで親の庇護の元にいた若者が、短時間で将来の進路を決めるのは悩ましいものだと思います。激戦を乗り越えて就職しても同時に経済的自立を求められ、会社内での出世争いなど在学习中には漠然としていたものが卒業後は一気に押し寄せてくるのです。このところ就職の安定率が悪いという話を耳にします。「石の上にも三年」という言葉もあります。自分の立ち位置をよく考えて、焦らずじっくりと行動してみたいと思います。そのような中、皆さんには大学生活を大いに楽しんで欲しい。二度と無い青春、人生の中で一番いい時期だと思えます。部活に研究に勤しんでいただきたい。そのため私たち後援会は学生諸君に援助を惜しみません。今以上に何が出来るのか、何をしたらいいのか、学生・保護者・大学と共に考えていきたいと思っています。皆様のご協力の程よろしくお願いたします。

## 参加された保護者の声

### ■全体説明の内容について

- ・わかり易い説明でした。学生の発言も好感が持てた。
- ・家族でも子どもとのコミュニケーションの取り方の参考になり、親としてではなく社会の先輩として大学と共有して行こうと感じ、参加して良かった。

### ■保護者懇談会または本学について

- ・貴学のことを知るよい機会となりました。施設もゆっくり見学させていただきました。大学ではこのような懇談会はないと思っていたのですが、せっかくなので参加しようと思いました。参加してよかったです。

### ■個別懇談での説明・対応について

- ・日頃関わってくださっている教授より、様子を聞くことができ、安心いたしました。
- ・わからない所はこまかく丁寧に説明していただけるし、子供のサポートもしていただけて、安心しました。

## CONTENTS

札幌大学後援会総会 保護者懇談会 保護者の声 後援会から……………	1面
ゼミ紹介-浅野ゼミ 後援会役員名簿 文化系サークル補助金交付式…	2面
全国FDサミット 大地連携ワークショップ 就職状況……………	3面
平成27年度事業活動及び 平成28年度事業計画……………	4面



コメンテーターとしてテレビにも度々出演し、ユーモアたっぷりの関西弁で、札幌大生以外の間でも話題と人気の浅野一弘先生。



毎週、講義に出席するのが楽しみだという学生は、浅野先生のメッセージをしっかりと受けとめていました。



この日の講義では憲法改正に関するディベートが行われ、熱い議論が交わされました。



# 場と機会を提供し、一般教養としての政治を楽しく学ぶ、浅野ゼミ

先の参議院選挙より18歳以上の国民に選挙権が与えられ、近年、政治への関心が若者の間でも高まっています。こうした時代を背景に現在、本学で注目を集めているのが、浅野一弘先生のゼミナール。法学専攻の必須科目の一つとなっており、「ニュースを読む」をテーマに、総勢13名の学生が、政治や行政に関する時事的な知識の修得に取り組み人気のゼミとなっています。今回はその講義内容について、浅野先生をはじめ、二人のゼミ生に語っていただきました。

## 新聞を手にする習慣を身につけ、読み解く能力の修得を

**浅野** 公職選挙法が改正され、選挙年齢が18歳以上に引き上げられましたが、私はまだまだ若年層の政治への関心は高まっているという感想を持っています。それを、このゼミを通じて少しでも向上させることが出来たらと考えています。ちなみに今回の参議院選挙には投票に行きましたか？

**内貴** 行きました。浅野先生のゼミは、学生が興味を持つテーマを与えてくださるので、私自身は政治への関心が高まり、新聞を読んだり、ニュースを見る習慣が身に付きました。

**齊藤** 私も投票に行っていました。将来、社会人の基本的な教養として、国内外の政治や行政に対する知識を身に付けたいと思っています。

**浅野** そのために社会人として新聞を読む習慣を身に付けてほしいと思います。新聞を読み解くには、ある程度の知識が必要となるので、このゼミで多くの材料を提供し、学びのきっかけになればと思っています。実は先の参議院選挙で内貴さんは北海道選挙区の候補者のもとに取材へ、齊藤君は「明るい選挙推進協会」に参加して来たんですよね。



浅野 一弘 教授 (政治学、行政学)

**内貴** 憲法改正について私と正反対の意見を持つている候補者でしたので、あえて考え

方を聞きにきました。新聞やニュース、ホームページでは知ることの出来ない候補者の考えを直接聞けたことは、視野を広げる良い体験になりました。こうした体験は、先生のゼミでなければ実現出来ないことだと思いますので、貴重な機会をいただいたことに大変感謝しています。

**齊藤** 私も面白い選挙推進協会の活動に参加し、人との交流を通して、政治への関心を高めることが出来ました。また、人と接するうちに気がついたのですが、私もテレビ番組のコメンテーターを務めていらっしゃる先生のように、人を惹きつける話術というか、コミュニケーション能力も学びたいと思いました。



齊藤 優真 さん (法学専攻2年生)

**浅野** 今後も座学だけではなく、教室を飛び出して議会やテレビ局見学などに出掛けていきたいと考えています。高校までは受け身の授業だったと思うんですが、大学では積極的に学ぶ自主性を養ってもらいたいですね。そのため場の提供にも努めていきたいと思っています。

## 理論や制度ではなく、身近なテーマで政治への関心を

**内貴** 私はさまざまな体験を通して多くのことを学んできましたが、政治について意見を求められても、すぐに答えられないところがあるので、今後は自分の中に知識として



内貴 百合子 さん (法学専攻2年生)

定着させていきたいと思っています。  
**齊藤** ゼミに参加していると、自分が何について、どの分野の知識が足りないか、改めて知ることが出来ますね。

**浅野** 大学における従来の講義では、主に理論や制度など、私たちの生活からかけ離れた学問としての政治を教わってきたと思いますが、私のゼミでは身近な問題をテーマに、堅いイメージを払拭して、楽しみながら役に立つ学びを進めていきたいですね。私の恩師の造語ですが、「臨床政治学」を今後も深めることで、法律や経済など隣接科目にも向学心を広げてほしいと思います。また、民間企業はもちろん、公務員を志す際の採用試験にも対応可能な、一般教養としての政治学も、しっかりと修得してほしいですね。

**齊藤** 今日の講義は憲法改正の是非をテーマにディベートを行いました。熱い議論になりました。先生の講義は真面目な中にも、時に楽しく学べるのが特長ですね。オンオフの切り替えがはつきりしているので、楽しみながら学ぶうちに、いつの間にか身になっていくというのが嬉しいポイントです。

**内貴** 私も先生の授業は毎週とても楽しみにしています。  
**浅野** 私を持ち上げてくれるみえすいたお世辞も、講義を盛り上げてくれる自主的な活動も大いに歓迎しています。(笑)

## 札幌大学後援会役員名簿

役員 (平成28年度～平成29年度)		
役職	氏名	担当
会長	猪狩 哲夫	総括・財務
副会長	日浦 和長	事業
〃	北崎 義弘	広報
〃	宮本 みどり	〃
〃	太細 博文	事業
監事	戸井 敏夫	〃
〃	三ツ木 芳夫	〃
運営委員	酒井 春樹	事業
〃	寒河江 正人	〃
〃	上野 洋子	広報
〃	林 明人	事業
〃	谷口 紀代美	広報

## 文化系サークル補助金交付式

今後の活動と未来の発展を願い、文化系サークルも積極的に援助しています！  
日時/平成28年6月21日(火) 午後12:20  
場所/第1会議室



本間雅美副学長からお礼の挨拶



平成28年度 文化系サークル補助金交付式

後援会では体育会系の課外活動のほか、文化連合会所属のサークルに対しても手厚い補助・支援を行っています。今年、補助申請のあったサークルは9団体。より充実した活動を目指す各サークルへ補助金の交付式が今年も行われました。式に先立ち猪狩会長が各サークルの代表を前に「天網恢恢、疎にして漏らさず」

という言葉を引用し、人の見ていない時や場所でも怠けることなく、一生懸命努力してほしいと挨拶し、式がスタートしました。続いて大学を代表して本間副学長から「心温まるご支援に感謝申し上げます」と御礼の言葉があり、いよいよ各サークルの代表一人ひとりに目録が手渡されました。これに対し、各サークルの代表が感謝の意を述べ、援助金の有効利用を誓う式は無事終了。後援会では今後も可能性大きな札幌大の未来を担ってもらうため、文化系サークルを強力にバックアップしていく方針であり、多くの団体からの申請をお待ちしています。

●交付団体  
アマチュア無線部、写真部、映画研究会、ジャズ研究会、アピロード音楽部、軽音楽部、演劇研究会、劇団イナマイト、アニメーション部

# 「大学をもっと良くしたい！」 全国の学生が本学に集い、熱く意見を交わした2日間!!

2016年度『全国FDサミット』のホスト校として、札大は全国の大学生を迎え、おもてなしと熱い議論を展開！【9月6(火)、7日(水)】会場／札幌大学

FDとは「Faculty Development」の略で、大学における授業や教育方法などを、学生が主体となって改善・向上を目指す活動のこと。本学では「札大おこし隊」と名付けられた有志を中心に、教職員も協同して大学改革に取り組んでいます。このムーブメントは日本各地で行われており、年に一度、全国の大学生が集まって日頃の活動を報告し合う『全国FDサミット』が開催されています。2016年度の開催校に選ばれたのが、我が札幌大学です。去る9月6、7日の両日、全国から34の大学、200名を超える学生・教職員が本学に集結。各大学のユニークな取り組みが報告されたほか、これからの大学づくりをテーマに熱い議論が交わされました。ホスト校の札大では、今回の参加者全員を「ごっこ大学」という架空の大学の学生に見立て、開会式を入学式に、各プログラムを講義に、閉会式を卒業式と言いつつ、ユニークな企画を立案。楽しく充実した2日間となり、イベントは大盛況のうちに終了しました。そこで今号では、ホストを務めた学生にその成果と感想をレポートしてもらいました。

## 学生FDサミットというイベントを通して成長

今回のイベントは大学の垣根を越えて連携したサミットという新しい試みでスタートしました。毎日顔を合わせられない状況でインターネットを活用し企画してきました。自分のミスや確認不足で至らない部分が多くありました。それをどうリカバーするか、またこの次、未然に防ぐためにどうしていくのかという能力を身に付けることが出来ました。社会人目前の自分がこのような貴重な経験を成長できたこと、それをどうやって後輩たちや他の学生に伝えていければいいのかが今後の課題になっています。ただ二つ言えることはどんな形でもいいから挑戦して失敗してそれをどうやって生かすのかそれを学生のうちにたくさん経験してほしいと願っています。



加納 正隆

## コアメンバーとして?

地域創生専攻4年 栗谷川 蘭

今回はサミットのコアメンバーの一人として、活動させてもらいました。が他の活動と掛け持ちをしていたため会議にも指で数えられるくらいしか参加できず、学長(かちゃん)や副学長(キョちゃん)には迷惑かけっぱなしでした。そんな中でも学長は自分のことを考慮してくれた上で仕事を預けてくれて本当に助かりました。参加してもらった側として走り回った経験も大いに学べる点があり、「冷静に且つ臨機応変に対応する力」は足りていなかった

力の一つとして体に覚えさせることが出来ました。

## 色々な人と話す経験を求めて参加

法学専攻1年 今村 豪

私は今回のFDサミットで色々な人と話す経験を得られると思いき、今回のサミットに参加しました。そして、今回得られた経験は非常に大きな物になったと思います。サミットの前日の準備では、自分から主体的にやるべき事を探して、実行しなければ



ワークショップの様子

ならないという事を学びました。サミットの1日目にはグループのメンバーの話し合いに参加する事の大切さを学びました。2日目には人とのコミュニケーションを取りながら自分の経験を話して、この3日間の経験を通過して、私は参加する以前より成長出来

## 東日本(北海道・東北・関東)で連携現地体験宿泊型「大地連携ワークショップ」に参加

このプログラムは、大学間連携共同教育推進事業で東日本広域の大学間連携による教育の質保証向上システムの構築の取り組みであり、本学からは地域共創学群生2人、短大生6人が夏期休業中に参加。札幌を離れて臨んだワークショップについて、貴重な体験談を短大生(一年生)に話してもらいました。

## 田舎体験で考える、豊かな暮らしをつくる生き方働き方

阿部 帆乃加

山形県真室川町で開催された大地連携WSでは、全国各地から集まった他大学の学生と3つのグループに分かれ、農業体験等を行いました。今まで農業と関わりがなかった私にとっては、札幌での生活では中々体験することの出来ない、新鮮な体験の連続でした。また、知らない地域・知らない人たちの活動は、自分の中で大きな成長・変化を感じることが出来ました。充実した4日間を過ごすことが出来、この経験は、これからの学生生活に必ず活かしていきたいと思えます。

た事を感じました。自分の未熟さや欠点を痛感することも多々あり、辛い事も多かったサミットですが、自分にとって有意義な出来事であったと思います。私はここで見つけた経験を大切に、自分の見つけた欠点を直していきたいです。

## 大学生が熱くなった日

地域創生専攻2年 加藤 燦太

数人の面識の無い学生同士が1つになり心身共に熱くなった「学生FDサミット2016夏」。皆それぞれ異なる学生生活をおくっている者同士が、魂を重ね合い特定のテーマについて熱く語り合う減多に経験することが出来ない機会だ。実際のディスカッションでの感想としては、自分の事例やそれに対して思ったことをポストイットに記載して貼り出すのは簡単だが、記載した本人がそれを解説し他人から意見ももらい、最終的にそれをまとめるという作業にとっても苦労を感じた。しかし、それによって皆が熱くなり距離も縮まったことによつて、このイベントの本当の意味、楽しさを感じることが出来た。運命に導かれて奇跡的に出会ったメンバーと今後に関わりを持てることを願いたい。



1日目の懇親会

今回のワークショップに参加し、現地の方からのお話や施設の見学を通じて、今まであまり知らなかった川崎市や多摩川について、多くの学びを得ることが出来ました。特に、現地の方が「失敗しても、そこから学び、次に繋げていくことが大切」とお話を聞いたのがとても印象的でした。また、期間中、たくさんの方々と交流することで、コミュニケーション力の必要さを改めて感じ、これからのような機会があれば是非参加したいと強く思いました。

## 川崎に「あさが来た」人による環境を 目指す大都市で私たちの未来を探ろう

村本 鈴花

今回のワークショップでは、アイヌ文化を始めとした様々なことを体験し、現代にまで続いているアイヌの人たちの知恵や考え方を学ぶことが出来ました。各地の大学生と交流することは、自分の価値観や人脈を広げることにも繋がります。WSが終わった今、残りわずかの学生生活がさらに楽しみに感じています。

また、様々な場面で、二風谷の方々の「人の温かさ」を感じ、充実した5日間を過ごすことが出来ました。今回の経験を無駄にしないためにも、また二風谷を訪れたいと思っています。

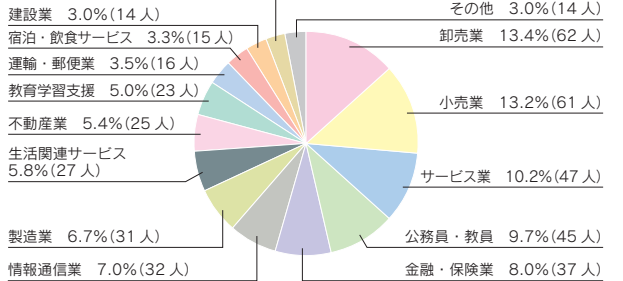


かわさきマイスター訪問(食品サンプル作り) 右から2人目が村本鈴花さん

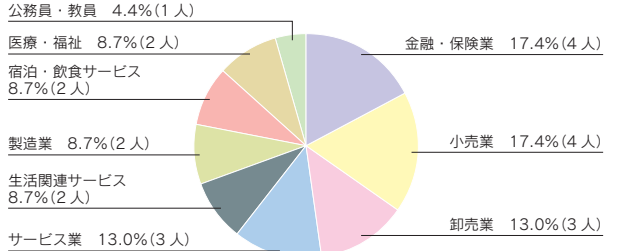
今回の学びを、今回だけで終わらせるのではなく、これからの就職活動や短大生活に活かしていきたいと思えます。

## 業種別就職比率 (平成27年度)

【大学】462人



【短大】23人



## 求人件数

大学を対象とする求人件数の総数は2,590件(昨年3,155件)、うち道内企業の求人件数は868件(昨年878件)でしたが、道外企業は1,722件(昨年2,277件)と大きく減少しました。短大においては、1,313件(昨年1,598件)、うち道内企業の求人件数が507件(昨年497件)となり、札幌を中心とする道内企業への就職を希望する割合が高い短大生にとっては明るい求人内容となりました。

## 就職決定状況(大学)

学部学科	区分	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定率	前年度就職決定率
経済	経	124	97	92	94.8%	83.3%
	外	46	35	33	94.3%	84.8%
	国	12	10	10	100.0%	71.4%
経営	経	164	140	131	93.6%	87.0%
	法	106	83	75	90.4%	91.5%
文化	文	167	130	121	93.1%	84.2%
	花	619	495	462	93.3%	86.0%

## 就職決定状況(女子短期大学部)

学科	区分	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定率	前年度就職決定率
キャリアデザイン	カ	28	24	23	95.8%	96.4%
	計	28	24	23	95.8%	96.4%

※キャリアデザイン学科は初の卒業生となります

注1) 決定率の算出方法は、就職決定者数を就職希望者数で割ったものである。

## 平成28年3月卒業生の主な就職先

- 大 (株)北洋銀行/㈱みちのく銀行/㈱秋田銀行/㈱北日本銀行/札幌中央信用組合/空知信用金庫/大地みらい信用金庫/北見信用金庫/日本郵便㈱/ANA 新千歳空港/北海道旅客鉄道(株)/東日本旅客鉄道(株)/サントリーパレツジサービス(株)/㈱クワザワ/イオン北海道(株)/㈱スズケン/国分北海道(株)/㈱アクティオ/㈱ほくやく/生活協同組合コープさっぽろ/ホクレン農業協同組合連合会/北海道漁業協同組合連合会、ほか
- 短 (株)北洋銀行/札幌中央信用組合/北星信用金庫/北海道厚生農業協同組合連合会/ANA 新千歳空港(株)/㈱札幌丸井三越/カネボウ化粧品販売(株)/札幌トヨタ自動車(株)/クニナップ(株)/㈱札幌東急ホテルズ/㈱グランピスタホテル&リゾート/マックスパリュ北海道(株)/富士化学工業(株)、住友生命保険相互会社、ほか

(就職担当 小野寛一主幹に総括していただきました)

## 平成27年度卒業生の求人状況・就職状況・本年度の現況

### 就職決定状況

景気の好転などに後押しされ、昨年度同様に完全に学生側の売り市場となった1年でした。就職活動は大学3年生及び短大1年生の3月に本格的に開始され、学生の滑り出しは順調でしたが、「就職活動の後ろ倒し(広報活動3月1日解禁、実質選考8月1日解禁)」の指針をまともに受け止めてしまった学生も多くいたことから、企業側の採用活動も学生たちの就職活動も長期化した1年でした。未内定者の大学対応としては、継続的に個別面談で指導にあたり、また、企業側の高い採用意欲にも助けられ、最終内定率は大学93.3%(昨年度86.0%)、短大95.8%(昨年度96.4%)と四大生の検討が目立ちました。

本年度は実質選考開始が「2カ月前倒し」となりました。しかしながら4月から5月にかけて選考を開始する企業が非常に多く、超短期決戦の波にしっかり対応できた複数内定組と、過密スケジュールに乗り遅れた未内定組との二極化が見られます。内定率は現在まで毎月10~12ポイントほど前年度同時期を上回っておりますが、部活で十分な就活ができていなかった学生や、公務員志望から民間企業へのシフト組を中心に、未内定学生も多くあります。昨年同様、10月から12月までが未内定学生には正念場となります。各企業の採用意欲は引き続き高く、「元気で礼儀正しく、しっかりコミュニケーションがとれる札大生を採用したい」という多くの企業から学内説明会・選考会の申し出がきております。魅力ある企業には今後も学内説明会を開催していただき、併せて未内定学生への個別指導は「より一層親身に丁寧に」行き、「面倒見の良い大学」という評価を定着させていけるよう努めてまいります。

### 業種別就職比率

大学は、卸売業13.4%(昨年13.2%)、小売業13.2%(昨年18.6%)、サービス業10.2%(昨年27.5%)、公務員・教員9.7%(昨年10.7%)、金融・保険業8.0%(昨年6.3%)と、例年どおり5つの業種で54.5%を占めました。その他は情報通信業7.0%(昨年4.0%)、製造業6.7%(昨年4.7%)と続いております。短大は、金融・保険業17.4%(昨年22.2%)と小売業17.4%(昨年18.5%)が比率が高く、卸売業13.0%(昨年11.1%)、サービス業13.0%(昨年29.7%)と続いております。

